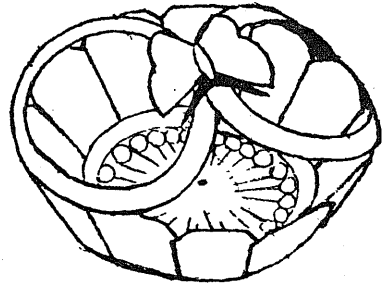


# 花のしり あしごと



(花かご・かめ・さゝ舟)

及 川 ふ み

先生や、お友達につくつてもらつた、風車や、コマや、くびかざりで一しきり遊んだ後は次第にたのしいおしごととして、幼児たちがおもちやを自分でつくれる様に進みたい。

## 花 か ご

作図の外円の一センチの部分は、花かごの手になるところであるから、その説明をして、花の色とちがう色にぬること。

花びらは次の三センチの部分であることをよくわからせて、赤や、かばや、むらさきなど、さまざまな色にぬること、花の中心のしべは黄色であることなど、各部の色どりをよく理解してからぬるようにする。それには、つくり上げた二三種類の花かごを用意しておいてみせるとよい。

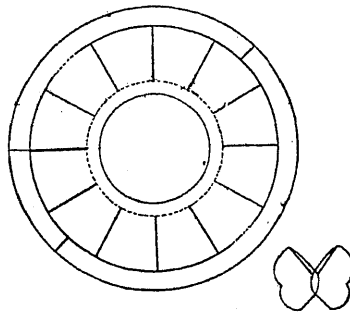
全部ぬり終ると、次に太い線の部分だけを外円から、次々ときるのであるが、幼児の欠の使い方は、まだまだ未熟であるが、そんな点には、あまりこだわらずに、幼児のつかつた欠のあとをよく残しておくことは、とくにその指導にあたって注意しておきたい。

各部を切りおわると、点線の部分を折りまげるのであるが、手になる部の一センチ半位

の点線は外えおりまげ、花びらの部分は内えおりまげる。手は外えおりまげた別の端同志を、一センチ重ねて糊つけにする。その四つ重なりの上に黄色い蝶や白い蝶などにぬつて、きりぬいた蝶をその上に蝶の胴の部分だけはりつける。

## 【工作図1】

$\frac{1}{4}$  縮尺

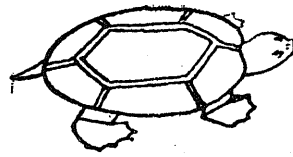


## か め

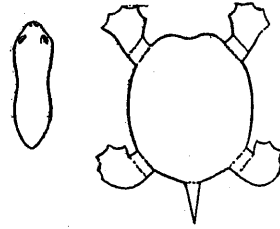
保育室にそろそろお玉じやくしや小亀などを飼育する季節も近づいてくる。亀の甲の形などは幼児が亀を毎日よく観察することによつてそ

【工作図2】

3/4 縮尺



1/3 縮尺



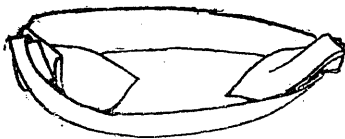
それぞれの表現が出来てくるから墨で、毛筆で甲らをかかせると面白い、又真黒に墨でぬつても面白い、足の点線の二つのおりこみで、簡単な立体観がつくところと、糸でつけた首が動くところにこの亀の面白さがあるのである。そしてその亀の子を、どういう様にして保育室で遊ぶかを幼児たちと一緒に考えるところよい。

床上積木で、かめの家をつくつて、新聞紙で岩や石をこしらえて、亀の子の休み場としてたりなどして集団遊びの材料としてもよいし又個人個人で、小さい空箱などで亀の家をつくつてもよい。

さし舟

さし舟は、ささの葉でつくるのが普通であつて、幼稚園で雨がりの水たまりや、小さい池などで、笹をとつてきては幼児同志で、ささ舟を浮かして遊んでいるのはよく見られる風景である。

自然の葉で作つた笹舟は、味のあるものであるが、しばらく遊んでいるうちに葉がまくれて水に洗んでしまうことが多い。これと今一つは大きいささの葉が少いのでささの葉のイミテーションを画用紙でつくるわけである。八つ切の画用紙を斜にして、出来るだけ大きい葉の形をつくつてその表、裏ともに、



2/3 縮尺

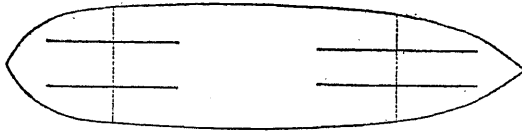
みどりのクレヨンで濃くぬる。両端の点線のところを内側に折りこんで、二つづつ切りこみをいれて、三つになつた中央を内にして、両端をさしこむのは、自然の笹の葉で作ると同様である。この画用紙の笹舟は、丈夫な作りとなるから、

水に浮んでいる間もながく、その舟の上に、簡単な作りのせんどうさんに乗せたり、帆をかけたりに遊べる。

この形の笹舟でなくても、幼児たちが自分で舟の形を簡単につくつて遊ぶとよい。要は水に浮かせて遊ぶことであるからこの部分もクレヨンを充分にぬつておくことである。

【工作図3】

1/4 縮尺



クレオンをぬつたことによつて、水をはじいて、よく浮ぶことが理解出来るとこれから何を幼児たちが考へてつくつて遊ぶことになるかをよく観たいものである。

かめの子、笹の舟などは作ることが容易でそれによつて遊びがながくつづくという点をよく考えさらに幼児たちが自分自身で、この種の外のおもちゃが作れるところまで、すすみたいものである。